

01-018

教科書からみる保育内容「健康」および「環境」の学習内容

澤田 孝二、澤田 由美

山梨学院短期大学 保育科

【はじめに】

保育内容「健康」および「環境」は、他の3領域すなわち「人間関係」、「言葉」、「表現」とともに保育士資格および幼稚園教諭免許を取得するための必修科目として位置づけられており、これらの学びを支える教科書や参考図書が多数の出版社から出されている。

本研究では、現在筆者が担当している保育内容「健康」および「環境」について、近年出版された教科書の内容を分析し、どのような知識や技術の習得を期待して出版されているのかを考えてみることにした。

【方法】

近年出版された保育内容「健康」の教科書8種類、保育内容「環境」の教科書8種類を用いて、各教科書の中で扱われている内容を整理していき、多くの教科書で重要なものとして扱われている内容、重要と思われるが一部の教科書でしか重要なものとして扱われていない内容を明らかにしていくことにした。

【結果と考察】

保育内容「健康」の多くの教科書で重要なものとして扱われていた内容には、子どもの基本的な生活や生活リズム、子どもの安全、子どもの心身や運動面の発達、保育者の役割、領域健康のねらいや内容、戸外遊びなどが挙げられた。また保育内容「環境」の教科書では、自然や生き物との関わり、文字や標識・数や図形・物や道具との関わり、5領域とは、領域環境とは、子どもの発達、保育・幼児教育の基本、子どもを取り巻く環境の現状と課題、園の環境、地域との関わりなどが重要なものとして扱われていた。

逆に扱われる頻度が低かった内容には、保育内容「健康」の教科書では、保育者にとっての健康、子どもの健康を守るガイドライン、子どもの体力・運動能力の測定、保育の計画や指導案の作成、保育の評価などが挙げられた。また保育内容「環境」の教科書では、自然を取り入れた遊び、環境教育、科学遊び、保育の計画や指導案の作成、保育の評価などがあげられた。

【おわりに】

保育士や幼稚園教諭を目指して学んでいる学生が卒業後に保育や幼児教育の現場に出たときのことを考えると、教科書では比較的扱われることが少なかった保育者自身の健康、子どもの健康を守るガイドライン、体力や運動能力の測定法、自然を取り入れた遊びの方法、環境教育のすすめ方、科学遊びの方法、保育の計画、「健康」や「環境」に関わる指導案の作成方法、保育の評価の方法に関する内容なども十分学べる教科書を作っていく必要があるのではないかと思われた。

01-019

口腔機能の発達で改善した子育ての悩み～ベロタッチの実践と効果～

吉良 直子^{1,3)}、立岡 廸子²⁾

市民団体 口からの健康づくり 歯っぴーかむカム¹⁾、
筑後市 立岡歯科医院²⁾、
医療法人祥風会 甘木病院³⁾

【目的】

子育てに悩む親子を対象に舌の刺激（ベロタッチ法）

を実践し、口腔機能の発達を通じた子育て支援を目的とする

【方法】1. アンケート調査：発達に不安のある未就学児（n=41）

2. ベロタッチの実践：口腔機能の重要性を説明し、納得した

親子を対象。児の協力を必須とし、無理強いはしない。

【成績】育てにくさを感じている人は82.9%、食事に悩む人

95.1%、言葉に悩む人92.6%等口腔機能に関することが多

かった。食事中のむせは100%、偏食は25.0%、言葉が出な

かった19人に対しては63.15%の改善を認めた。

これら未就学児に加えて、自閉スペクトラム障害・発達障害・

多動・特異的運動障害と診断された中学生の支援を行った。

支援は当初ベロタッチのみで、主訴の「涎」がなくなり、口

腔機能の改善と並行して腕が上がるようになった。その後複

数の手法を加えて腕は頭まで上がるようになり、発語の明瞭

化粗大運動が、次いで指関節等の微細運動、巧緻性が向上した。

ふらふらせずに長時間立てるようになり、目を合わせ、笑顔

での会話が可能になった。

【結論】発達に不安のある児を対象とした10年ほどの活動の

中で、「育てにくい」と言われる児の中には、ベロタッチ（舌

の刺激）により「食べる」「話す」等の機能が発達し、心身の

発達が促される例を多く経験した。今回支援精度の向上のため、

アンケートを実施した。悩みの多くは口腔機能の発達に

応じて改善した。舌が水平に動くようになると嚥下が成熟し

極端な偏食の減少や発語が認められた。

今まで咀嚼、嚥下、発語の発達、及び姿勢等全身的な改善も

事例はあったものの、未就学児は他の訓練も受療しているこ

とが多く、ベロタッチによる効果としての評価が困難だった。

しかし今回、ベロタッチにより涎、姿勢の改善の他、腕上げ

等の粗大運動、指先の巧緻性の向上が認められた自閉スペク

トラム障害等を有する中学3年生を経験した。これは舌の複雑

な神経支配によること、加えて舌のストレッチにより頭の

位置が安定し、体幹が安定した結果だと推察される。全身的

な評価に関しては熊本保健科学大学の久保高明准教授の協力を

を得た。小児の発達に口腔機能の発達は大きく貢献でき、歯

科医院は子育てに不安を持つ保護者の支援の場ともなると考

える。今後も親子に密着した支援活動を続けていきたい。なお、

一部は第36回日本小児歯科学会九州地方会総会で報告した。